



パウチャー配布会場の様子



5月初旬からモニタリングとして人々の生活状況を詳しくヒアリングしています。「障がいを持ちながら家族を養うのは本当に大変だ」「日雇い仕

シリア難民・ホストコミュニティを対象とした緊急食糧支援トルコのキリス県で暮らす、シリア難民と脆弱なホストコミュニティの人々を対象にした食糧パウチャー配布が無事に完了しました。パウチャーとは、契約販売店で食糧を購入入できるように金額が設定された日本のプリペイドカードのようなものです。トルコでは昨年からの著しいインフレが続いていますが、今回、パウチャーが使用できる販売店とはインフレの影響を最小限におさえる契約を締結していたため、人々は予定通り2〜3カ月相当分の食糧を無事に手にすることができました。

トルコ 2500世帯への 食糧パウチャーの配布が 完了しました

●シリア難民・ホストコミュニティを対象とした緊急食糧支援

事であるとかしのいでいる」といった切実な声を聞き、一時的な緊急食糧支援だけでなく、中長期的な視点で生計支援を行っていく必要性の大きさを改めて感じました。今後の支援活動にぜひ活かしていきたいです。

*本事業は、ジャパンプラットフォームからの助成金やジェンへの寄付金により実施しています。



忘れないこと、学んで活かすこと

2022年2月24日以降、ニュースはほぼウクライナ一色になった。支援の現場で、戦闘は悲劇しか生まないことを目の当たりにしてきた我々には、一つひとつの映像の先に現地の惨状が想像され、暗澹たる気持ちで日々を過ごしている。

他の地域の窮状がこのニュースにかき消されていくのも気がかりだ。アフガニスタンやシリア難民の方々(だけでなく元々危機的な状況にあった人々)の暮らしは、改善するどころか、さらに厳しさを増していることに、なかなか注目が集まらない。

忘れずに支え続けることは、支援を必要とする人々の命のために重要なのは言うまでもないが、別の意味もある。それは、紛争の被害とはどのようなものかを学び、それを次に活かすことだ。支援を続けていると、復興とはいかに長い時間を要するのか、その間、どれ程の苦しみを味わう人たちがいるのかを切実に感じずにはいられない。その切実さが、どうすれば次の紛争を起こさずにいられるかを共に考える原動力になると思う。どれほど正義のためと主張しても、武力を使えば悲しみと憎しみの連鎖が続いていく。どうすれば紛争を起こさずにいられるのかを切実に考え続けたい。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

スタッフの ひとこと

5月に入職し、広報・ファンドレイジング部に所属する池田織枝です。ジェンの活動について多くの人に知っていただき、ジェンの活動を支えてくださる方を増やすことを目指していきたいと思います。実はオフィスで働くのは久しぶりですが、一刻も早く慣れてチームに貢献できるよう頑張ります。

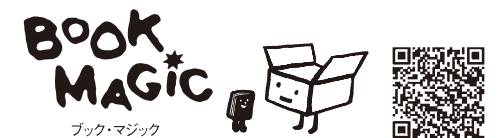
長く続く紛争や大きな災害のあとで「生きる力」を支えていく ジェンの活動へのご支援のお願い

月額1,000円から始められる寄付プログラム JENサポーター(継続寄付)



月々1,000円から始められる定額自動引き落とし型の寄付プログラムです。年4回発行のニュースレターをお届けするほか、活動報告会などさまざまなイベントのご案内をいち早くお知らせいたします。

読み終えた本やDVD、ゲームソフトは...



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。
※QRコードを読み取る際、無料アプリをお使いの方は、アプリによって広告が表示される場合がございます。間違えて広告をクリックされないようご注意ください。
※ゆうちょ窓口・ATMで現金支払いの場合、同封の赤枠の振込用紙を使っても振込手数料が110円かかります。
※手数料についての詳細はゆうちょ銀行のホームページ (https://www.jp-bank.japanpost.jp/ryokin/rkn_sokin.html) にてご確認ください。

東京本部事務局の住所について

特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202

ホームページ <https://www.jen-npo.org/>
NPO JEN

Japan.Emergency.Ngo
@NGO_JEN

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。



アフガニスタン

2回目の緊急食糧配布が始まっています

●緊急食糧配布事業



コミュニティの住人へのヒアリングの様子

ウクライナ危機の影響で、アフガニスタンでもとくに小麦の価格が高騰しており、さらにインフレも重なって、人々の生活状況は日を追って厳しくなっています。この状況を受け、2回目の緊急食糧配布をスタートしました。今回は、2月の配布時よりも広いエリアを対象にしており、重複支援がないようにコミュニティの人



配布準備を行うジェンのスタッフ

たちにヒアリングを重ねながら、最も支援を必要としている人たちに食糧を届ける活動を続けています。

女子教育の大切さを引き続き啓発していきます

●女子教育環境改善事業

昨年から始まった女子教育環境改善プロジェクトは、政権崩壊による混乱はありましたが、無事に完了することができました。活動も終盤の今年3月末に、女子中高生への教育が再開される予定でしたが、なんと当日の朝に、再開の延期が発表されてしまいました。すでに学校に登校していた女子生徒たちはショックを受け、泣きながら家に帰った

子もいたようです。この発表に対し、首都カブールではデモが起こったほか、宗教指導者たちも女子教育の重要性を訴え、学校再開の申し入れを行いました。本プロジェクトは一旦区切りとなりますが、ジェンではイスラム教の文化的宗教的規範に則った研修を実施していくことで女子教育に対する理解を深める活動を継続的に行っていきます。



学習キットを手にした子どもたち。キットには、ノートや筆記用具のほか、コンパス、分度器などの数学用セットも入っています。

パキスタン

民族間の衝突を配慮し、研修場所を増やして研修を開催しました

●学校教育環境改善支援

前号でもご紹介したように、クラム県上部地域で森林の所有権をめぐるスンニ派とシーア派の衝突があり、研修場所の調整が続いていました。県当局と協議の結果、研修場所を全4カ所に増やすことで、対象となるすべての教師と保護者が安心して参加できる環境で研修を行うことができています。一方、学校建設については、冬の間、低温でコンクリートの乾きが遅かったり、豪雨の影響で作業が中断したりしていました。気温の上昇とともに作業が再開し、8月中旬には、建設中の全8

校が完成する見込みです。春休み明けの3月には、生徒への衛生教育セッションも再開しました。



衛生教育セッションの様子



建設中の女子中学校。屋根にコンクリートを打ち込む作業をしたときの様子

安全な水を届ける支援プロジェクトが始まりました

●コミュニティに対する水供給支援事業

ハイバル・パフトウンハ州コハート地区オラクザイ郡のコミュニティに対する水供給支援事業が4月からスタートしました。この地域は、紛争やテロの影響で水衛生、教育、

インフラなど多くの分野で復興や開発が遅れており、人口の56%は、安全な水を確保できない状況にあります。本プロジェクトでは、老朽化や破損した給水施設の整備を行いま

す。同時に、施設を清潔に維持するために結成された飲料水コミュニティアクショングループ(DWCAAG)への研修を行い、持続的に安全な飲料水を確保できる体制を整えていきます。

ジェンからの

お知らせ

01

新理事就任のご報告

2022年4月から、理事の顔触れが変わり、新体制となりました。3月まで理事を務めてくださった根本信博共同代表理事、尾関葉子副代表理事、多大なる貢献をしていただき、ありがとうございました。新たな理事の方々をご紹介します。

今井悠介 さん

小学生で阪神・淡路大震災を経験。大学在学中より被災児童支援を原点とするNPO法人にて子ども・若者や不登校児童の支援活動に携わる。現在代表理事を務める公益社団法人チャンス・フォー・チルドレンでは経済的困難を抱える子どもへの教育支援を行っている。

桑原香苗 さん

1991〜1994年国際交流基金派遣日本語専門家としてインドネシアの国立大学に勤務。現在はセラピスト/コーチ組織開発コンサルタントとして人と組織が心身ともに本来持つ可能性をフルに生かすことを支援。教育や気候危機などの社会課題にも取り組む。JANIC理事でもある。

齋藤高市 さん

世界宗教者平和会議(Rfpf)日本委員会にて、主にタイ・カンボジア国境難民問題、人権問題を担当後、立正佼成会本部で諸宗教協力・平和活動に12年間従事。この間、国際自由宗教連盟(IARE)国際事務局にて2年間勤務。1998年より国内外で支教室長・教会長を歴任。

02

ジェンでのインターンを終えて

2022年1月から約2カ月間、ジェンのインターシップに参加した2人の学生に、感想を聞きました。

今回のインターンでは多岐にわたる仕事を任せていただきました。寄付を募る記事作成においては、読み手の目に留まりやすい、一般の方に支援したいと思ってもらえるような文章とはどんなものか、文量や写真の選択など広報担当の職員の方とたくさん相談をして作り上げることができました。短い間でしたが、ジェンの方々と一緒に働くことができ、アットホームな雰囲気です。インターンの期間を過ごすことができました。(大学3年 Tさん)

約2カ月間、本当に刺激的な体験をさせていただきました。今まで机の上で学ぶことでしか触れ合えなかった広い「世界」に、職員の皆様との関わり合いを通じて触れることができました。学んできたからこそ使うことのできる英語やコミュニケーションスキルなど、今までの努力の蓄積の一つの結果として捉え、成功体験を得ることができたと思っています。今回学ばせていただいたことを糧に、社会に影響力を与えることのできる大人に成長していきたいです。(大学2年 Aさん)

03

「自己組織化」を目指した取り組みを行っています

ジェンは、組織基盤の強化に向けて、2020年5月より「自己組織化組織」という組織運営システムを導入しています。Nextreams株式会社様のご厚意で、先日オンボーディング研修を実施しました。導入後から入った職員が「自己組織化組織」の基本的な考え方や仕事に取り組み姿勢などを勉強しました。導入してから2年、積極的な意見や取り組みが増えたと感じています。入職の時期に関係なく、ジェンの職員一人ひとりが、より力を発揮できるよう、各職員が能動的に自身の業務範囲を明確化し、そこに責任を持てる仕組みづくりをこれからも目指していきます。